

| 議事録 | | |
|--|--|---|
| 議事録 | 会議名 | 朋有小学校・西巢鴨中学校校舎一体型小中連携校および総合体育場の整備等を考える会 |
| 議 題 | 1 | 開会 |
| | 2 | 先端の学校事例について |
| | 3 | 学校の在り方・学びの環境について |
| | 4 | 報告事項 |
| 日 時 | 令和7年7月28日(月) 18:30~20:00 | |
| 場 所 | 西巢鴨中学校 体育館 | |
| 出席者数 | 代田会長(朋有小学校PTA会長)、他委員18名 事務局(4名) 傍聴人 2名 支援事業者:9名 | |
| 会 議 内 容 (要 旨) | | |
| <p><会の概要></p> <p>1. 開会</p> <p>○学校施設検討部会の立ち位置について(類設計室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設検討部会は「夢を描く」ステージ。10月から模型などを使い、「形にする」段階へ入っていく。「形にする」段階では、学校施設検討部会で得られた意見などをコンセプトなどへまとめていく。 ・学校施設検討部会1回目は、「先端の学校事例に学ぶ」をテーマに、学校施設・学び環境として大事にしたい視点、課題を抽出する。第2回は、池袋本町小学校、池袋中学校の連携校に学び、小中連携と地域連携空間について議論する。第3回目では、学校施設検討部会2回分とワークにより学校としての計画をまとめていく。 <p>2. 講義: 先端の学校事例について</p> <p>3. 講義: 学校の在り方・学びの環境について</p> <p style="padding-left: 20px;">教育環境研究所所長 長澤 悟氏</p> <p style="padding-left: 20px;"><新しい時代の学び、学校のかたちとは></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい時代の学びとは、社会の中で生きる力、社会の変化に対応する力を伸ばすことを指す。 ・文部科学省の報告書では、「新しい学びに対応する学校施設」の必要性が強調されており、施設が「学びの場」を変える上で重要であるとされている。 ・未来志向の施設とは、従来の学校の固定概念にとらわれず、自由に発想し、未来を創造する施設である。 ・学校は、もっと自由に、横断的に、多目的に考えるべきである。 ・このような施設をつくるのに必要なのは、子どもたちの学びの場、生活の場、その時の子どもたちの気持ちを考えることが重要。 ・「どんな学校を実現したいか」を創造的に考えることが重要であり、知識だけでなく、多様な人々が集い、共に学ぶ「場」としての学校が大切である。 | | |

・
<先端事例>

- ・キーワードは「みんなと一緒に」と「自分の居場所」。
- ・オープンな教室：先生の机がない、教室内に小部屋があるなど、多様な学習形態に対応できる空間。
- ・可変性のある教室：仕切りがなく、活動に合わせて空間を変えられる教室。学年全体が見渡せるような空間設計。
- ・「学びのエリア」：複数のクラスと先生が連携し、小スペースから広大なスペースまで選択できる場所。特別支援学級の児童も共に活動できるような設計。
- ・図書館の役割：単なる本の保管場所ではなく、学びの中心となる「空間」としての図書館。
- ・特別教室の活用：廊下側にも開かれ、本物に触れ、挑戦できる場を提供する。
- ・運動場と校舎の一体化：廊下がグラウンドに開かれ、学校全体で多様な活動を展開できる空間。
- ・「自分の場所」の多様性：固定された机だけでなく、様々な場所で学習できる環境を提供。

<小中連携・併設の可能性>

- ・小中連携の事例：同じ敷地内に小中学校を設置し、中庭を挟んで挨拶する、合同で学習発表会を行うなどの取り組みがある。
- ・一体型の事例：小学校と中学校が同じ校舎内にあり、成長段階に応じた学習環境と教員の連携を促進する。
- ・総合施設としての学校：学校が地域に開かれ、多世代が交流する拠点となる。公民館や運動施設と一体化した学校施設がその例。災害時の避難所機能も併せ持つ。

【意見要旨および質疑応答】

- ・考える会の委員は専門家ではないので、事例について意見は出せない。
 - ・巣鴨小学校の子どもたちは、6年間別の場所で過ごして、その後西巣鴨中学校へ通うことになる。朋有小学校と西巣鴨中学校が一体の施設になった場合、ギャップが生じる可能性がある。また、本計画の予算についても、具体的に示していただいた方がこの計画より身近に感じることができる。
- 小中連携をどのように実現するのか、連携校と巣鴨小学校でどのような連携ができるのかという点も今回の議論を通して深めていきたいと考えている。
- また、予算について、学校改築1校で90億円程度かかる見通し。今回は小中連携校と総合体育場の整備のため、200億円程度かかる見通しをしている。今後、建築費の高騰も予想されているため、状況に応じて検討していく。
- ・小中一体型の連携校と分離型の連携校の違いを明確にした方が議論しやすい。
 - ・すでに連携校として整備してある池袋本町小学校と池袋中学校のメリット・デメリットを通して議論した方がよい。
- 小中連携については、第2回学校施設検討部会の中で触れていきたい。池袋本町小学校と池袋中学校についても、触れていく。

- ・ 9年間の学びを考えるなら巣鴨小学校の児童を含めた9年間を考える必要がある。巣鴨小学校の改築ができなくても改修でギャップを埋めることは可能か教えていただきたい。

4. 事務連絡

- ・ 学校見学について
- ・ 子どもワークショップの開催について

次回日程

8月頃下旬から9月上旬予定（別途お知らせいたします。）